

教育センターだより

令和5年3月10日発行
北九州市立教育センター
TEL 641-1775
FAX 641-1833
【ホームページ】
<http://www.kita9.ed.jp/educctr/>
【Eメール】
admin@educctr.kita9.ed.jp

みらい塾出前講座 5大学×3講座実施！

みらい塾 出前講座

教育センター所員が、大学に出向いて講座を実施しています。学生リーダーと内容を検討し、教職の魅力を発信するとともに、実践的な学びになるようにしています。

九州共立大学・九州女子大学・西南女学院大学・梅光学院大学・福岡教育大学に訪問しました！

「コグトレ」



「色か絵か数字か？」



「最初とポン」

「授業づくり」

「発問・板書」「模擬授業体験」等



所員のロールプレイ



模擬授業体験

「学級づくり」

「模擬学級開き」「特別活動」
「教室環境」等



模擬学級開き体験



「かくれたカリキュラム」の協議

「子どもや保護者との関わり方」

「教師と子ども」
「教師と保護者」
「ロールプレイ」



「保護者との関わり方」



「子どもとの関わり方」

【受講した学生の振り返り】

- ◇ 実際に子どもたちとのやりとりを模擬的に行う活動をとおして、教師になるために重要な力を高めることができたと思う。普段関わることのない、北九州市の教員を目指す学年を超えた人たちと関わることで、貴重な経験をすることができた。
(小学校教諭希望者：1年生)
- ◇ 北九州市教育委員会では、教師の悩みや不安などを解消できるように、様々なサポートが行われていることを知ることができた。
(中学校教諭希望者：1年生)
- ◇ 教育実習直後ということで、実習での課題を解決していけるのかという大きな不安が残っていた。だが、今回の講座をとおして、学級経営や教室環境について自分なりの考えをもつことができた。また、同じく北九州市を目指す仲間がいて、一人ではないということを実感できた。講座に参加することは、とても有意義な時間であった。
(特別支援学校教諭希望者：3年生)
- ◇ 今日の出前講座を受講し、北九州市の「あなたを一人にさせない」という合言葉を知って、少し教員になることへの不安は減った。
(養護教諭希望者：4年生)

【大学担当者の感想】

- ◇ 学生たちにとって大きな刺激になったようである。特に4年生からは、3年生のときに受講したかったという声がたくさんあった。
- ◇ 将来、教師を目指す学生にとっては、大学の講義や実習と違った視点で学ぶことができるので、とても役立つものであると考える。

北九州市 ステージ0の人材確保・育成 特集!

○ みらい塾出前講座

延べ480名参加

○ 新採教員応援講座 FT+

延べ540名参加



新採教員応援講座 FT+ 全3講座実施!

新採教員 応援講座

本市の新規採用教職員が、教員生活を安心してスタートできるように、基本的・実践的な講座を行っています。同期の横のつながりもできています。

第1回 12/3 (土)

リモート型実施



教育委員会の全課が総力を結集!

第3回 2/18 (土)

リモート型実施



小グループのチューター制で意見交流!

第2回 1/20 (金)

午前：教職員採用候補者説明会

午後：FT+第2回 集合型実施



当日は、学校事務職員も含めて286名が参加しました。参加率は99%を超えました。

【受講者の振り返り】

- ◇ 受講前は、教師になることより社会人になることへの不安に押し潰されそうになっていた。しかし、全3回にわたる講座を受けて不安は解消された。北九州市は新採教員のサポート体制が充実しており「教師のしおり」や「KitaQ せんせいチャンネル」など、入職前から情報収集をすることが可能である。説明会で配布された資料を含め、春休み中に目を通しておきたい。(小学校教諭採用)
- ◇ 演習では、いろいろな方と意見交換したり、講師の方から現場の状況を聞いたりして、4月までのモチベーションにつながり、子どもたちに会いたいという気持ちが強くなった。オンデマンド動画は、好きな時間に好きな場所で見ることができ、落ち着いた雰囲気での学習することができた。(中学校教諭採用)
- ◇ 本講座を受講して、オンデマンド動画も含めて「子どもの視点に立って行動の背景を考えること」「先輩の先生方に積極的に質問をすること」などの大切さについて改めて気づき、考えることができた。これからいつも一人一人の子どもや保護者の視点に立って行動すること、長所に積極的に目を向けること、こまめに記録を取る習慣を付けることなどをしっかり意識していきたい。(特別支援学校教諭採用)
- ◇ 子どもたち一人一人との関わりを大切にしていきたいと改めて感じた。チームの一員として対応する気持ちが大切と学んだからである。いただいた資料を活用し、4月までにできる勉強をして知識を増やしていきたい。(養護教諭採用)
- ◇ 教育的領域についての理解が深まった。課題解決に向けて、学校事務職員の自覚や責任をもち、教職員で連携していきたいという意欲が高まった。(事務職員採用)